

第 9 4 6 回

## 定例教育委員会会議録

日 時 令和 7 年 8 月 2 1 日 (木) 1 5 : 0 0 ~

場 所 益田市役所 第一会議室

益田市教育委員会

## 第946回 教育委員会定例会

招集年月日 令和7年8月21日（木） 15:00～

招集場所 益田市役所 第一会議室

議事日程

第1 会議録の承認について

第2 教育長報告

第3 議題

報第20号 学校遊具において発生した事故とその対応について

報第21号 「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果」について

報第22号 「夏休み！算数・数学パワーアップ教室」について

第4 その他

(1) 情報提供

(2) その他

出席者

教育委員会

教 育 長	領 家 芳 明
教 育 委 員	齋 藤 哲 瑯
教 育 委 員	原 田 笑
教 育 委 員	山 本 ひとみ
教 育 委 員	森 脇 達 也

事務局職員

教 育 部 長	藤 本 美 香
教 育 総 務 課 長	齋 藤 勝 義
学 校 教 育 課 長	田 原 正 紀
学 校 教 育 課 参 事	杉 原 貴 宏
ひとづくり推進課長	岡 崎 健 次
文 化 振 興 課 長	田 中 一 史
美 都 分 室 長	澄 川 武 寿
匹 見 分 室 長	小 林 晃
教 育 総 務 課 長 補 佐	植 田 拓 也
教 育 総 務 課 主 任 主 事	木 束 地 志 緒 里

領家教育長 定刻となりましたので、ただいまから令和7年度第946回益田市教育委員会定例会を開催いたします。  
それでは議事に入らせていただきます。

## 第1 会議録の承認

領家教育長 前回定例会の会議録につきましては、委員の皆様には先ほど承認いただきましたので、ご報告させていただきます。

## 第2 教育長報告

領家教育長 7月28日から本日に至るまでの私が関わりましたことにつきまして、3点皆様にお知らせをしようと思っております。

まずは、7月30日16時から萩・石見空港で行われました「ふれあいサマーキャンプ in 益田送別式」に係ることでございます。皆様方ご承知のとおりと思いますが、このふれあいサマーキャンプというのは益田市の友好都市であります川崎市から小・中学生の皆さんがサマーキャンプとして参加してくださるもので、十数年来続いている行事でございます。

今年度は2泊3日の予定で、川崎市から小学生15名、中学生7名、社会教育団体や学校の先生方の引率が6名、総勢28名でいらっしゃいました。初日は鎌手の海岸でSUP体験や海水浴をし、その後、ぬくもりの里二川に移動していただいて、夜は石見神楽を鑑賞していただきました。翌日は美都町の子どもたちと一緒に川遊び体験として鮎のつかみ取りをしています。コロナ禍以降久しぶりに益田市の子どもとの触れ合う体験を行いました。その日もぬくもりの里二川に宿泊し、3日目は喜阿弥にあるぶどうの収穫、あるいは乗馬体験などを行って川崎市に帰るというスケジュールでございました。

今回参加した小・中学生22名は、希望者が多数だったので抽選で決まったと聞いております。実はその中学生7名の方の中に2度目の参加だという子どもさんがいらっしゃいました。この話をあらかじめ聞いていたので、送別式のときに、「おじさんがインタビューしたい人が2人いるけどやってもいいかな」と言ったら、22名の子どもがみんな喜んでうなずいて、「いいよ、いいよ、僕に聞いて、僕に聞いて」と言ってくれました。実は聞きたい2人は2度目に益田市に来てくれた人ですということで、何で2度目に来たいと思ったのという話と、2

度目の益田市はどうでしたかという2つを聞かせていただきました。2人のうち1人は男の子で、もう一人は女の子ですが、小学生のときにふれあいサマーキャンプに参加していました。1人の女の子は、お母さんが益田市出身ということで、「ずっと益田市に興味を持っていて、おばあちゃんのところにも来ていたけど、自然体験などはできなかったので、一度小学生のときに来てみたらとても楽しかったから、もう一度、里帰りではなくふれあいサマーキャンプで参加したいと思ってきました。石見神楽なんてそうそう見ることができないし、SUPや鮎のつかみ取り、それから地元の子と遊ぶことがとても楽しかった」というお話をしてくれました。男の子は、去年小学6年生のときに参加していました。「去年喜阿弥のぶどうがおいしかった。それよりも関わってくれる益田市の大人の人がとても温かくて、また今年も来てみたいと思っていたら抽選に当たった」と言っていました。「今年はどうだった」と聞いたら、「面白かったので、もうこのまま帰りたくない」と話をしていました。

最後に、お話の中で、「11月1日から3日に川崎祭というのが開催予定で、そこに益田市のおじさんやお姉さんたちが益田のおいしいものを持って売りに行くから、ぜひみんな来てください」と言ったら、「どこでやるの」から始まって、引率の先生方に聞いておられて、「ぜひ来る」と言ってくれました。こうした関連人口が増えていき、益田市のおいしいものが、お母さんやお父さんたちに分かってもらえたら、また家族みんなで遊びに来てねと言ったら大きく頷いていたのが、とても子どもらしく素直で印象的だと思いました。これが1点目の話です。

2つ目は、教育委員の皆様方にもご参加いただきました「ひとづくり研修 ペップトーク研修会」です。参加者は100名ぐらいですが、アンケートを見ますと、「すごくプラス思考になった」、「自分のネガティブ思考を諦めたい」、「益田の中でこんな声かけを自分ほしい」、「スポーツの指導者だけど今までの声かけを反省して、子どもたちにもっともっと、このようなやる気を持ちたい」という声や、あるいは「明日からの自分の暮らしぶりを反省して、家族との関わり、家族の声かけ、我が子の声かけも、講師の岩崎さんのような、ペップトークの話を生かしたような会話、声かけができるようになりたい」というようなことをたくさんおっしゃってくださいまし

た。講師の岩崎由純さんから「呼んでもらえたら幾らでも来ます」という元気な言葉もいただきましたので、もし機会があれば今度は市民多くの方に聞いてもらえる場を設けることができればいいなと感じた次第です。教育委員お二人の方も来ていただいたので、また皆様方にご感想等をいい機会でお伝えいただければ有り難いと思います。

最後は、「ひとが育ち輝くまち益田 夏フェス」を今年も開かせていただきました。10時に開始して17時までの開催時間で、参加いただいた方で最初から最後まで会場におられれば7時間になります。当初はおよそ200名の参加予定でしたが、当日の参加者が400名を超える数の方に参加いただきました。ずっと会場におられた方も場面に応じて参加していただいた方もいますが、益田市のひとつづくりのことを市民の皆さん、特に子どもさんを抱える保護者の皆さんにたくさん聞いてみたいというのが今回の実行委員会が一番の狙いでした。当日の参加者数を見れば、ある程度、目的の一途にはなったと感じました。この中で、14時から16時の間でトークラウンジを開いて、様々な団体の方たちがパネルディスカッションをしたりする中で、私も1つコーナーをいただきまして、教育長の部屋というコーナーを繰り広げさせていただきました。ですが、2時間続けてだと、年齢が年齢なのでくたびれてしまうと思ったので、最初の紹介のときに、「皆さん、徹子の部屋はご存じですよ。徹子の部屋の時間は30分なので、僕の部屋も30分で開催しようと思います。わがままを言いますが、最初の30分と後半の30分で開きます。わがまま言ってすみません。気持ちがある方だけ、まったりと来てください」とお話をしました。最初の30分には、5・6人の皆さんが集まってくさいました。その中には益田市出身で、就職活動中の大学4年生の子どももいました。それから、昨年も来てくださった福岡県の方がもう一度僕と一緒にしゃべりたいからという理由で参加してくれました。いろいろと関わりのある方たちが来てくださって、中には益田市内の公民館の職員さんもいらっしゃいました。何かを説明するというのではなく、益田市のライフキャリア教育はどうですかなど、ライフキャリア教育で育った大学4年生に「あなたたちの頃には益田版タカリバって言っていたあれってどうだった」みたいなことを最初の語りかけにしながら、本当に和気あいあいとした、時間を忘れるような30分間を過ごすことができました。後半は、益田市のひとつづくり、今

年から名前を変えたコーディネーターのOBの方で、豊川小学校と一緒に一生懸命やってくださった方が、昨年度から島根県の教職員に採用されています。浜田市の勤務ですが、その方も加わってくださり、その方と一緒に参加してくれた浜田市の関係の社会教育の方も去年来てくださって一緒にしゃべった方ですが、もう一度来るよと言っていただきました。様々な方たちがいる中で、まったくした対話でしたが、益田市の人たちだけでは10年来ひとづくりに携わっていても気づかないような気づきを他市の方たちが語ってくださり、本当に良い時間になったと思います。また、来年も今回の反省を踏まえながら、多くの方がたくさんのブースに顔を出せるような、そんなフェスにできればいいなと感じました。

以上3点、この1か月の間に私が関わりましたことで、皆様方にご報告をさせていただくというところがございます。また、何かありましたら、後でおっしゃっていただければ有り難いです。

続きまして、通常であれば寄附・寄贈についてご紹介をさせていただくところですが、8月は現時点に寄附・寄贈の案件がございませんので、報告をさせていただきます。よろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

第3 議題  
報第20号  
領家教育長

### 学校遊具において発生した事故とその対応について

それでは、続きまして議事日程第3議題に移らせていただきます。

本日の会議ですが、報告案件が3件ございます。

それでは、報第20号学校遊具において発生した事故とその対応について事務局より説明を求めます。

齋藤課長

それでは、学校遊具において発生した事故に対しての状況、そして後の対応につきまして、資料に基づきご説明をさせていただきます。

まず、事故が発生したタイミングでございますが、令和7年6月18日の水曜日、午後5時頃でございます。発生場所としましては、益田市立吉田小学校の敷地内にあります遊具のターザンロープで発生をいたしました。吉田小学校2年生の男子児童が対象児童です。事故の概要です。一旦学校が終

わって、自宅に戻られまして、ランドセル等々を置いて、いま一度友達と遊ぶために学校へ行き、敷地内にありますターザンロープで遊んでいたところ、ターザンロープに乗って進む中で、その支えているワイヤーロープが緩んで、使用中だった児童が地面に向けて落下することになったというところではあります。そこを見まして、その周りで遊んでいました児童が教職員等へ報告し、落下した児童の状況の確認を行ったところではあります。あわせて、この時点で学校から教育委員会にも連絡ございましたので、私と加田参事で現場へ駆けつけました。実際に現場に行きましたところ、児童につきましては保護者の方と、それから養護教諭とけがの状況の確認をしているところでした。児童については、左手の甲をかなり強く打ったため、保護者の方と、それから私どもと、それから教頭で近くにあります病院に駆けつけました。病院での診断につきましては、左手親指と人差し指の間にあります骨の部分が骨折をしているとの診断を受けたところではあります。

この後のところではあります。学校の遊具への対応と児童のけがではあります。まず、この事故の発生を受けまして、益田市内小学校に設置している可動遊具等について同様の危険性があるとはいけませんので、緊急安全点検を営繕職員等によりまして速やかに実施をいたしました。これにつきましては、確認をしたところ不備がないということを確認しましたので、ターザンロープ以外の遊具につきましては継続して使用できるという判断をしたところではあります。

また、児童につきましては、病院における処置で左手を固定しましたが、実際には利き腕が右手ということで、保護者、それから学校とも含めて気を遣いながら翌日からの登校を行いまして、3者による児童のケアの対応を続けてきた状況ではあります。その後、二度の通院を経まして、7月11日に病院にて完治が確認されました。

この事故の原因の検証というところではあります。事故発生の対象となったターザンロープにつきましては、これ以外にもそうですが、年1回、専門業者による教具・遊具全ての日常点検を行っております。実はこのターザンロープを支えるワイヤーロープの劣化は昨年 point 点検で指摘をされておりました。これに基づきまして、この間、使用を禁止し数週間整備をしながら修繕を6月7日、8日で行ったところではあります。実はこの修繕完了後、利用を再開して3日目に事故が起きたという状況にあ

ったところでは、事故原因の検証につきましては、修繕を依頼した業者、それから学校と現場における事故直後の状況を想定した検証、それからターザンロープを支えるワイヤーの検証を含めて動作確認で動作検証を中心に行いました。事故発生の翌日から検証を行っております。翌日の時点では修繕を行った業者と検証をいたしました。この段階では事件、事故両面を想定する確認、調整というところで確認をいたしました。その翌日には、益田警察署に立会いをいただきまして現地検証を行っております。ターザンロープを支えるワイヤーロープにつきましては、回転をさせることによりそのワイヤーロープと本体を接続するフック部が回転してワイヤーロープを締めつけるねじ部が緩むことが確認できたところでは、言葉で説明すると分かりづらいと思いますので、次のページに写真があります。全体を写した左側のターザンロープの状況で、下側にあります写真は、接続部分です。右上の写真が、今回外れた状況のものになります。ただ、下の写真を見ていただくと、本体部分との接続するフックと、真ん中にボルト、それからナットで締めつけた金具があります。その左側に輪になったワイヤーがあります。これから左側に向けてはワイヤーロープにターザンロープがつながっている状況になっております。今回、この右側の本体部分のボルト部分が抜けたことが事故の状況になっているところがございます。実際にそのねじ部が緩むことを確認した上で、6月26日に再度、修繕業者、学校と現場検証を行いました。警察の検証で確認した事項を踏まえまして、次の2点の要因が確認できたところでは、1点目は、ワイヤーロープ自体には、設置するにあたって編み込みがありますので、ねじれが生じます。乗っていく振動によってこのねじれを戻す力が働きますので、この戻す力と、金具を締めているナットの部分が回数を重ねるごとに緩んでいくことが分かりました。これによって、ナットが緩むとボルト自体もどンドン回っていきますので、先ほども見ていただきました右上部分の写真と同様の形で滑落したというような状況が今回の要因にあったかと思っています。実際にここの部分を想定していれば、予防策を考える必要性がありました。特にナット自体をダブルナットといたしまして完全に固定するやり方、もしくはワイヤー自体をチェーンで巻き付けるやり方などの想定ができたところでは、この措置自体も怠っていたというところは今回の要因にあたるとい

う見解を、修繕業者から得たと状況になっております。

これを含めまして、この金具の部分につきましては、学校に設置している防球ネット等を含めた選定というところで業者が行ってきたところでございますが、今回のナットの緩みにつながるフック部の回転また施工時のワイヤーのねじれはなかなか想定できてなかったということで、この金具の選定とその施工方法に誤りがあったと修繕業者が認めまして、これを含めて事件発生の原因として確定したところでございます。

最後に、今後の対応です。先ほども言いましたように、7月11日に児童につきましては完治をしたと報告をいただいております。この間、完治してから本日に至るまでも何回か既に保護者の方、また自宅を訪れまして児童の状況も確認をしてきております。先日、児童から声をかけてくれまして、学校には元気に登校していることの報告は受けております。今回のけがによりまして支払った治療費等につきましては全国市長会の市民総合賠償補償保険の対象ということで、まずは益田市から保護者の方へ保険で補償することになっております。今この手続きについては保護者の方と進めております。補償した保険金につきましては、保険会社を通じまして修繕業者と調整することといたしております。

また、教具・遊具についてです。やはりこういったことが起きないようにということも含めまして、修繕時においても、安全性の確認を再度徹底し、またこれまで同様に年1回の専門業者による点検、また学校においても日常点検は継続して行っていただき、場合によっては必要に応じて職員による緊急安全点検を行っていきたいと考えているところです。

最後に、学校のターザンロープの今後というところです。事故が発生してしまいましたが、保護者の方から「益田市内学校に1つしかない遊具で、子どもたちもすごくターザンロープに乗ることを楽しみにしている。児童に人気があるということ踏まえて、できればこの事故で撤去するということではなく、安全を確認した上で再開してほしい」という要望をいただいたところです。これにつきましては、保護者の意向も含めまして、再度安全策を研究しながら、再開できることを含めて調整してまいりたいと思っております。取り急ぎ、発生した事故の概要、要因、そしてその対応に関しまして説明は以上になります。今後このようなことがない

ように、再度徹底をしながら進めてまいりたいと思っております。

領家教育長

それでは、ただいま説明した件につきまして、ご質問等あればお願いいたします。いかがでしょうか。

森脇委員

先ほど最後にありましたが、再開の目途は大体いつ頃を考慮しておられますか。

齋藤課長

これにつきましては、今日、教育委員会に報告させていただきました。そして来週、市議会にも報告をする予定としております。学校とも、多分、事故後に全校の児童に対して説明をしつつということで、一旦状況としては落ち着いてきていますが、再開については、水面下で業者とも調整しながら、安全に安全を重ねた策は、ここだけではなくほかの公園とかいろいろなところでやっている策、研究もしているところです。この安全性が完全に、いろんな試運転と検証をしながら、できた時点ということなので、時期ということとは明確にできませんけれども、安全が確認された時点での再開に向けて対応してまいりたいと思っております。以上です。

森脇委員

事故が起こったときに子どもたちがいち早く教職員に助けを求めたと報告がありました。このあたり、すごく大切なことだと思います。やはり大人に助けを求めたりするような安全教育について身をもって知った機会になったかと思っておりますので、そのあたりをしっかりと市内の小・中学校でも共有できたらいいのではないかと私は思いました。

齋藤課長

今回こういった事故が起こったことに関しましては、市内の学校にも文書等でもお知らせをしたところですので。こういったことに関して、確かにおっしゃるとおりでございますので、様々な機会を通して学校に投げかけながら対応していただく形で進めてまいりたいと思います。以上です。

領家教育長  
教育委員

そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。  
＝全員了承＝

報第21号

「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果」について

領家教育長

では、次に移らせていただきます。報第21号「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果」について事務局より説明をお願いします。

杉原参事

では、令和7年度学力調査、全国学力・学習状況調査の結果概要について報告をいたします。報告の前に3点ほど数字の

誤りがございましたので、口頭にて修正をよろしくお願いたします。表紙を1ページとしまして、3ページの小学校6年生の国語、一番上に棒グラフありまして、その次に表がございます。その下に、市平均正答率は63%でありとなっておりますが、59%の誤りでございます。大変申し訳ありません。

続けて、5ページ目の小学校3年生の国語、これも同じくグラフと表に続いて、四角で囲んだ市平均正答率は54%でありと書いてありますが、51%の誤りです。大変申し訳ありません。

今度は6ページの中学校3年生、数学でございますが、これも同じ箇所です。グラフがあって、表があって、その下の四角のところに市平均正答率は48%でありとなっておりますが、41%の誤りでございます。大変申し訳ありません。修正をよろしくお願いたします。

それでは、報告に移らせていただきたいと思えます。それでは、2ページをご覧ください。調査の実施日でございますが、令和7年4月17日に小学校、国語、算数、理科、中学校、国語、数学を行っております。それから、4月18日から4月30日の指定された実施日、これは学校によっていろいろとありますが、このときに小学校の児童質問調査、それから4月14日から4月17日のうち指定された実施日において中学校の理科と生徒質問調査を行っております。この児童・生徒質問調査と中学校の理科については、いわゆるタブレットによる回答ということでございますので、全国一斉で行うことは難しいということなので、分散した開催となっております。あわせて、4番の実施学校数、学年、教科等、人数でございます。見ていただいたとおりの人数で参加をしておりますが、国語と算数・数学、理科であったり、意識調査と少し人数にばらつきがありますけれども、当日欠席をして受験できなかった子どもであったり、特別支援学級在籍のお子さんと教科を限っているというところ、それから小学校の理科ですけれども、下の公表結果に関する留意事項にも少し書いてありますが、複式学級のある学校が7校ございます。そのうちの、小学校5、6年生で1学級となっておりますけれども、教育課程上、AB年度方式という方式、学年別の指導ではなくて単元により小学校5年をやったり小学校6年をやったりというような形になりますので、この年は小学校5

年生のやつをやって、その次の年に小学校6年生をやってというようなカリキュラムの組み方をしているということですので、7校中6校がまだ学習していない内容があるということなので実施をしておりません。そのため、小学校理科だけが少し人数が減っております。

次に、公表についてというところでございます。2つ目の中学校の理科については、そのほかの教科については平均正答率で報告させていただきますが、理科においては、タブレットで行っておりまして、IRT方式というもので実施をされて数値が出されております。このIRT方式というのは、正解、不正解だけではなくて、どれぐらいの能力を持った人がどの問題を正解したか、どの問題を間違えたか、いわゆる問題のレベルみたいなものです。パターン分析をし、そのお子さん自身に実力があるかないかというところをクロスして換算して出す数値ということになっているようです。今回は500という得点を基準にして表示をしてあります。

それから、小学校理科については先ほどのとおりで、実施をしていない学校がありますので、今回に関しては益田市全体の結果概要ということでございますので、小学校理科についての公表は差し控えたいと思っております。

それでは、結果に移りたいと思います。3ページをご覧ください。小学校6年生の国語になります。教科の平均正答率になりますが、益田市が59%、全国が67%、県が64%で、全国からはマイナス8ポイント、県からはマイナス5ポイントを下回っているという状況でございます。例年お話をさせていただいておりますが、平均正答率の1ポイントというのは、1ポイント当たり、教科によって少し差はありますけれども、大体0.14問から0.16問、今回はということになりますので、大体6、7ポイントでおよそ1問の差ということになっております。そのためおおよそ益田市と全国、県とは1問差という形で捉えればいいのではないかと思います。

特に小学校6年生の国語で課題が見られたというところでは、例年必ずありますけれども、点の3つ目のちらしの書き表し方について調べたことを基に詳しく書くという設問でした。これは、いわゆるある条件が設定されておりまして、その条件に沿って60文字から100文字以内で書きなさいという問題が、全国と比べてマイナス15ポイントになってお

ります。それから、点の一番下の資料1を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを資料2、資料3、資料4に書かれていることを理由にしてまとめて書くという設問です。これも資料が4つ提示してありますが、それを見ながら自分の考えについて理由を添えて条件に合わせて書くということがマイナス10ポイント差で、これはやはり例年と同じように、すごく苦手になっているということです。これについては、昨年度からずっと取り組んでいます、気づきと対話の授業づくりの対話を生かして、このあたり、フォローを入れたいと思っております。

ただ、今まで無回答がとても多かったですけれども、先ほどのちらしの書き表し方についての設問では全国とそこまで差がなく、無回答率もさほど高くなかったです。ただ、最後の資料1を読み返してという設問は、これは最終問題になっておりまして、問題数が結構たくさんありまして、最後まで至らなかったお子さんも含めているということで、粘り強く書くという姿勢は少し見られると考えられます。

それから、次のページになりまして、小学校6年生の算数です。平均正答率は益田市が52%、全国が58%、県が55%となっておりますので、差としては0.5問から1問ぐらいの差となっております。今回、小学校6年生の算数で少し気になると点というところで、割合の問題は毎年毎年苦手になっているお子さんがたくさんおられて、点の一番下に10%増量したという設問がありますが、やはりこれ、苦手になっているところがございますが、今回少し気になったのはその上の5個上の点にある、0.4足す0.05について整数の加法で考えるときの共通する単位を書く設問です。これは、要は0.4足す0.05をするとき、0.4は0.01が40個、それから0.05は0.01が5個ということは、0.4足す0.05は0.01が40足す5で45個あるので答えが0.45というようなことで、いわゆる共通する単位はさっきの0.01になるのですけれども、この回答がややできていなかったという結果でした。恐らくは0.4のところを見て0.1と書いたということが多いです。

それから、同じようなことですが、その下の4分の3足す3分の2について共通する単位分数と4分の3と3分の2が共通する単位分数の幾つ分になるかを書く設問です。いわゆる4分の3足す3分の2をするとき、分母が違いますので

同じ単位量にするために通分をして1/2分の幾らという形に変換する問題が解けていなかったです。あわせて、分数の問題はその下にもう2つありまして、数直線上に示された数を分数で書くという設問で、数直線がゼロから2までありまして、1を3等分に分けてあって、2のところも3等分に分けている。そのうちの1を3等分したところの3分の1のところに矢印が1つ、それから3分の1が5個目なので1と2の間の3等分のところに矢印が1つで、そこに当てはまる数字を書きなさいという問題です。分数というのは1を基準にしてそれを何等分にするかという考えですが、大半のお子さんがつまづいておられたのは2が要は6等分になっているところで6分の1、3分の1というような回答をしたお子さんが非常に多かったです。あわせて、その下、2分の1足す3分の1を計算する設問は先ほどの単位分数みたいなところの理解というところで、この計算に少し戸惑いがあるところが今回、顕著だったと思います。

それから、続けて中学校3年生の国語でございます。これは、平均正答率が51%、全国が54%、県が53%ですので、中学校の国語についてはそこまで全国、県と離れていない状況です。中学校の国語ですが、今まで、先ほどの条件に合わせて書くという設問が、やはり得点がなかなか伸びなかったのですが、今年度そういったところであまり全国との差が大きくなかったので、随分書く力が少し伸びているのではないかと判断しております。ただ、一番上の点の変換した漢字として適切なものを選択する設問、「かいしん」です。これは、文章は「かいしんの出来だ」と書いてあって、「かいしん」は会うに心の会心、それから大化の改新、改める新しいの改新、それからもう一つが改めるの心の改心が選択肢でありました。答えは会う心の会心だったのですが、それが選べなかったというところがありました。あと一番下にある点の手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見つけて修正する設問です。これは全部、文章があって、その中から1つだけ漢字が間違っているところがあります。1つは「専門的」の門が問うという漢字になっているのを気づけなかったというお子さんが少し多かったのがというところでございます。

それでは、ページをめくっていただきまして、中学校3年生の数学です。数学は、平均正答率が41%、全国が4

8%、県が46%ということですので、おおむね1問差という形でございます。中学校3年生の数学で少し気になったのは、特に課題が見られた設問と正答率全国差というところの上から4つです。

1つ目は、1から9までの数の中から素数を全て選ぶ設問です。この回答について、1を選んでいるお子さんが非常に多かったのと、1、3、5と来たら7、9を選んでしまう。いわゆる9は素数ではないけれども選んでいるというところで、これが全国と比べてもマイナス16ポイントの差がついています。

それから、2つ目の果汁40%の飲物aミリリットルに含まれる果汁の量についてaを用いた式で表す設問です。0.4aという問題ですが、これも少し差がついています。

それから、その下の三角形ABCにおいて角Aの大きさが50度のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める設問です。基本180度引く50度で130度となりますが、これを310度と書いていると。ぐるりと回す、50度を除いた、360度という回答をしているお子さんがおられます。

それから、その下の一次関数「 $y = 6x + 5$ 」について、xの増加量が2のときのyの増加量を求める設問です。2を代入したらyは17になって、0のときは5になって、17引く5は12という答えですが、これも正答率が非常に低かったです。1番目、2番目、4番目に関しては、いわゆる数と式の初歩的な基礎的な内容になっているので、そのあたりが中学校では1学期に数と式の勉強をして、2学期、3学期はまた別のことを勉強しますので、この4月に全国学力・学習状況調査がありますので、数と式を若干忘れていところがあるのではないかと考えております。

それから、中間のところに、先ほどの一次関数の下の下になります。が、「 $3n + 3n + 3$ 」の和を「 $2(3n + 1) + 1$ 」と表した式から連続する2つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する設問と、連続する3つの3の倍数の和が9の倍数になることの説明を完成する設問があります。これは今までもありましたけれども、式や言葉によって状況を説明することをやはり苦手になっています。

それから、点の最後の2つですが、四角形が平行四辺形になることの証明を完成する、証明する設問です。証明についてもやはり苦手になっている状況になっています。

続いて理科になります。これは、先ほどもありましたが平均正答率ではなくてIRT指数、スコアというところで、私ものはっきり詳しくは分かりませんが、グラフを見ると5つ得点を分けて、5というのが一番高い場所で4、3、2、1というところで、全国と比べると2、3は益田市が多くて、4、5、高い得点のところが全国より少ないという傾向が見てとれると思っています。それで、理科で特に課題がみられた設問と正答率全国差にある上から4つが少し、10ポイント以上離れていて、やや気になるとなっています。

1つ目は、クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する設問です。クリーンルームというのは、外からほこりとかが入らないように、室内の気圧を高くして、気圧の差によって、要はそこに入る、気圧は高いほうから低いほうに流れるわけですので、ほこりとかが室内に入らないように気圧の違いによって風を起こしているということと同じものを、4つ選択肢があり、正答を選択するというものでした。正解はストローで飲物を飲むというのが正解ですが、それ以外ではコップの外側に水滴がつくとかを選択しているお子さんが多かったというところでした。

それから、その次はこの文章だけでは分かりませんが、設定した仮説が正しい場合の実験結果の予想を選択するという設問です。「オームの法則が成り立っています」というような仮説でした。オームの法則というのは、電流と電圧が比例の関係になっているという法則ですけれども、4つ表がありまして、比例関係になっているのが1個だけあって、それを選ぶということですが、それが少し選べていないというところでした。

それから、3つ目の牧野富太郎さんのサクユリのスケッチから、サクユリの茎の断面の横断図、根として適切なものを判断し選択する設問です。これは、ざっと見るだけだとなかなか難しいと思いますが、ユリというのは単子葉植物で、単子葉植物と双子葉植物があって、単子葉植物は茎を切ると維管束とか道管というのがばらばらに配置されています。双子葉植物は丸く円になっていて、赤い水につけて吸い上げると道管が赤く染まるといった断面図を見て判断し、根については、単子葉植物はひげ根といって球根からぶわっと出る根で、双子葉植物は主の根から脇に出るということを選ぶ設問でありますけれども、それがなかなか選べていないところが

1点ありました。

それから、4つ目は予想から学習した内容が反映されたAさんの振り返りを読み、Aさんの予想を判断し選択する設問です。これは動画で、加熱したアルミ缶を冷やすとぎゅっと潰れる動画を見た後に、Aさんが、自分は最初、水につけようとしたときに煙がアルミ缶から出たので、そのアルミ缶から化学反応が起きているだろうというような振り返りをしていました。なので、これも選択肢でしたが、選択肢でそういった煙が出たという、燃焼の化学反応が起きているのではという仮説をしたと捉えるところを、膨張して急に冷やすとぎゅっと縮まるからへこんだという仮説を選んでいたというところで、こういったところでやや課題が見られたところでございます。

それから、8ページ以降は、意識調査の結果になっております。毎年同じ項目を並べてはおりますけれども、学校に行くのは楽しいと思えますかの質問には、全国とか県とやや少しの差はありますけれども、昨年より少し上がって、8割に達しています。

それから、自分にはよいところがあるという質問です。これは、中学校は全国、県とほぼ同じようなところですが、小学校はやや少し下がっているけれども昨年度よりはやや上がっています。でも、8割あるというところでございます。

それから、3つ目の話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができるという質問です。これも中学校はおおむね全国、県平均と同じようなところで、小学校がもう少しかなというところでございます。少し気になったのは5番と6番です。国語の授業はよく分かる、算数・数学の授業はよく分かるという質問です。国語については、小学校6年生も中学校3年生も昨年よりもやや下がっていて、全国、県よりも少し落ちています。それから、算数・数学は、算数が県平均とはさほど変わらないですが、昨年より少し下がって全国とはやや差がある状況です。中学校は、ほぼ同じというところでは。

それから、最後のページの10ページですけれども、ICTの活用の充実というところでは、これも全国、県に比べますと中学校は随分伸びて県平均よりも高くなっておりまして、全国平均に近づいているところでございますが、小学校はまだ少し県平均、全国平均にまだ届いていない状況であり

ますけれども、昨年の状況から見ると随分活用は進んでいると捉えております。8番目の学校の授業時間以外に、普段1日に1時間以上勉強するかという質問です。これについては、中学校、小学校、それぞれ県、全国よりも低くなっているということです。全国の調査結果にも、全国的にもこの傾向はすごく強くなっているようで、その裏返しで、スマホ等で動画を視聴する時間はぐんと伸びていて、その分、学習時間が減っているというのは全国的な状況にあります。これについては、今年度、学力推進プランで、いわゆる授業改善と、基礎学力の向上と、幼・小・中・高連携という3本柱で学力育成推進室が進めております。基礎学力の定着というところで、家庭学習も1つ柱にしておりまして、4月から6月にかけて各学校の第1回の学校訪問で現在の状況等を確認して、時間が1時間以上でなくてはいけないというわけではないですが、家庭学習を少し充実させて、家庭学習と授業の往還を続けられるようにという指示をしているところでございます。

それから、改めてこの学力・学習状況調査を各校で分析をしていただきまして、国語、算数・数学、理科における課題プラス小学校6年生と中学校3年生、それから国語、算数・数学、理科だけではない他教科、それから異学年でどんなことをやるべきかについてと、今後、授業改善が必要なもの、それから評価方法について検討して今月中に提出ということにしております。その結果については、2学期以降の第2回目の学校訪問でヒアリングを行いたいと思っております。以上です。

領家教育長

ありがとうございます。ただいま説明した件につきましてご質問等がありましたらお願いいたしますが、いかがでしょうか。

森脇委員

平日の家庭学習時間の件ですが、資料の10ページになります。ここに問いとして学校の授業時間以外に1日1時間以上勉強するという、1時間以上という質問項目があるわけですが、以前も私、この1時間以上というところになぜ1時間以上なのだろうとすごく気になったことがあって、結局その1時間というのが何を基準にして1時間としているのかが分からなくて、これについて、少し分析していただくといいのではないかと思いました。1時間以上勉強する子どもたちのいわゆる点数というか正答率がどれぐらいあるのか、1時間に

満たない子の正答率はどうなのか、そういうのがある程度分かると、子どもたちもテストでいわゆる正答率を上げるためには1時間は勉強することが必要だということが分かると思います。それから保護者さん、家庭でも、こういう結果が出るのであればやはり1時間は家でも勉強をやらせようという意欲づけになるのではないかと私は思います。そうしないと、この1時間というのを聞き流してしまっ、その意味があまりうまく伝わらないのではないかと思います。お忙しいところですが、1時間の意味づけを丁寧にしていくと、学校現場でも、やはり差が出るのか、正答率に違いがあるのか、じゃあ1時間、本当の意味で子どもたちやご家庭でも話をしてみようというふうにつながるとと思いますので、ぜひ取り組んでほしいと思います。

杉原参事

ご指摘ありがとうございます。家庭学習1時間、全て、これは家庭学習の時間が何時間ありますかという問いで、5時間以上、3時間、4時間というところで、ほとんどしないが最後ですが、それでも1時間以上で区切ってやっております。その時間よっての正答率みたいところはまだ出してはおりませんが、過去に行った集計では家庭学習と絶対数と平均正答率の相関関係はあまり出てはいませんでした。もしかしたら得点云々で若干相関関係が見えるかもしれないので、検討してみようと思います。ありがとうございます。

原田委員

現在、基礎学力向上ということで家庭学習に力を入れられているということですが、具体的にはどういうことをされているのか分かれば教えてください。

杉原参事

やり方については各学校に委ねているところが主で、こちらで必ずこれをしてくださいということを行っているわけではないですが、ただ1つ、家庭学習が次の日の授業につながって、その日の授業のことがまた家庭学習につながっていくというそのつながりの往還みたいなものは考えてくださいねという話はしています。学校によっては、小さい学校だと担任とか教科担当だけじゃなくて全職員が分担をして、1人が10人ずつぐらい宿題を集めてみるなどの取組をしているところとか、学校によっては家庭学習の状況を廊下等に貼り出しをして、こういった取組が参考になりますよと紹介する取組をやっている学校もございます。基本的に小学校は家庭学習の手引みたいなものを必ず年度初めに各家庭にお配りをして、それにのっとって家庭学習を行うということにはなっ

おりますけれども、取組としてはそのぐらいでしょうか。

原田委員

各学校単位で実施されているということですが、年々家庭学習の時間が減ってきていて、全国的な方向性としても減少傾向ということですが、この辺で対策を打たないとまずいのではないかとという危機感はすごく感じていまして、学校単位ではなくて市全体として、いい事例があれば情報交換をしたり、実績が上がったものについては一緒に話し合ったりする機会を持ったほうがいいのではないかと感じます。都茂小学校に訪問する機会があった際には、廊下に家庭学習のプリントをすぐに取りれるように出しておいて、誰でも取っていいようにという取組もすてきなと思いました。そういう取組を共有していただき、先ほど森脇委員がおっしゃったように1時間単位でなくて10分でできる、10分単位でもどうやって重ねていけばいいとか、ICTの活用もこれだけ進んでいるのであれば、いかに興味を持って楽しくゲーム感覚のような形で取り組んでもらえるかということ、もっと掘り下げて具体的に子どもたちがどうやったら家庭学習に向かえるかという方法を学校単位じゃなくて市全体で考えて共有していく場があると有り難いなと思います。

杉原参事

ご指摘ありがとうございます。そういった形でできるよう進めてまいりたいと思います。

山本委員

ICTの活用についての説明にもありましたように、昨年度から比べると授業でのICTの活用状況がぐっと伸びています。これはICT機器を主体的に活用ができているし、その活用が充実してきているということだろうと思います。そのことが4番の質問にある問題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むという、自主的、主体的に学ぶという姿勢が、県と比べても国と比べても高いポイントを維持しているという要因の1つになっているのではないかと思います。ただ、その下にある授業がよく分かるかということにはなかなか結びついていないのではないかと思います。主体的に学ぶという姿勢は随分できてきているので、それが、「授業が分かる」ということにつながるものがもう一歩必要ではないかと思っています。ICTの活用の仕方、原田委員の発言にも通ずることですが、具体的に活用の仕方の好事例を先生方や生徒の中で共有することもいいのではないかと思います。

杉原参事

参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

す。

齋藤委員

あまり学力にこだわるわけではないですが、子どもたちにとってやる気が出てくる方法をやはり考えないといけないのだろうなと思います。各回、全国の学力調査のときにも学校が楽しいかどうかという調査を取っているのですが、その比較を試みることは一つの方法だと思います。それから、もっと詳しく言えば、例えば学校が楽しいか楽しくないかの背景は何なのかということがあられるでしょうし、中学校はこれでおおよそ60%は1時間未満しか勉強していないということでしょうから、場合によっては部活動が理由なのか、益田市内は部活の参加率は約20%が参加してないと思うので、そういった関係があるのかないかとか、あるいは、塾や家庭教師がついているかついていないのか、それから自分の得意な科目は何なのかというようなことを含めて、益田市用の調査という具体的な背景を探っていくと方向性が描けないのではないかと感じました。

また、今AIとかインターネットで簡単に調べられるものですから、何も無理して勉強しなくても覚えなくたってという雰囲気も子どもたちの中にあることも事実なので、あまり押しつけてどうこうということよりも、どうしたら学ぶことが楽しいかということなどを踏まえて、子どもたちの学習意欲を出させる方法を考えていくことが求められていると思います。

杉原参事

詳しい把握ができていないというのはありますけれども、益田市では学びに向かう子ども育成ということで、気づきと対話のある授業づくりというところで授業改善を図っていくことによって国語とか算数の授業がよく分かるという、先ほど言われたように教師だけが1人でしゃべって知識を注入するような授業ではなくて子どもが主体となる学習を進めていくということを授業改善で進めていきたいと思っております。

領家教育長

そのほかよろしいでしょうか。それでは、この項を閉じさせていただきます。

教育委員

=全員了承=

報第22号

「夏休み！算数・数学パワーアップ教室」について

領家教育長

続きまして、報第22号「夏休み！算数・数学パワーアップ教室」について事務局より説明をお願いします。

杉原参事

毎年恒例になっています長期休業中の算数・数学パワーアッ

プ教室について報告をさせていただきます。

今回は8月4日から8月8日までの5日間、実施をしております。最初の4日、5日の2日間はふれあいホールみとで、後半の3日間は吉田小学校を会場にして行いました。参加者ですけれども、今回は島根大学の学生のみ参加になりましたけれども、21名参加をしてくださいました。そのうち、リピーターが8名です。昨年度から教育学部の「1000時間体験学修」、いわゆるボランティア活動を1,000時間卒業までにと達成する、そういったお子さんにもお声がけをして、今回4人参加をしてくださいました。

それから、小・中学生ですが、小学生が65名、中学生が43名でございます。記入はしていませんが、リピーターが50名、約半分がリピーターでございました。夏の開催は結構右肩上がりに上がっていましたが、今回やや参加者が少なくなったのは会場が吉田小学校会場ということで、吉田小学校からはたくさんの児童が参加していただきましたが、益田小学校ですとか吉田南小学校から結構いつもたくさん参加して下さっていましたが、今回は数名にとどまったということで、場所の選定としてやはりグラントワや市民学習センターとかそういった施設が会場である場合のほうが参加しやすいのではないかと考えております。冬以降はそういったところで開催を予定しています。

アンケートについてですが、資料のとおりになっております。参加のきっかけは、以前参加したというのが非常に多いということと、今回のふれあいホールみとでの開催で、美都中学校は全校生徒が参加をしてくださいまして、そのため学校の勧めという理由が13名、これは美都中学校の生徒が答えているところでございます。アンケートの結果は軒並み90%以上が肯定的評価で、子どもたちも学生も喜んで参加してくれたと思っております。春休みのところで、学生からよかった点と気になった点を挙げていただきまして、その中で集中できない子が多いとか、遊んでいる子が多いとか、話をしている子が多いと報告がありましたので、今回は小学校に関しては個別の学習の時間を、ぐんぐんコースとじっくりコースと2つに分けまして、吉田小学校が会場ということもありますので、それぞれのコースとまた2つのグループに分けまして、大体1つのお部屋に小学生が10名程度入って、学生にそれぞれのグループで6名程度入っていただく体制で行

いました。それでも少し集中できないというお子さんもいますけれども、大学生の中で集中して取り組んでいたというのが8名書いてくれ、分からないところが素直に聞けるとか意欲的に挑戦している等の意見を聞かせていただいて、私も4つの教室を回りながら見させてもらいましたけれども、結構じっくり、しっとり学習を進めているところが多かったと思って、分散した開催もいいのではないかと考えております。

活動内容については、初日の夕方には、二川地区の方とピザ作りの交流を行いました。それから、2日目の午後のところは都茂公民館が公民館開放でひとづくり推進課も関わって、小・中学生と学生との交流ということで、しっかり交流して遊んだというところがございます。それから、3日目以降の個人学習のオンライン数学相談、毎回時間を設けておりますけれども、今回希望者はございませんでした。やはりオンラインでやるよりは実際に学生に会いたいとか、一緒に教えてもらいたいという希望が多いのだと考えております。以上です。

領家教育長

ありがとうございました。この件につきましてご質問等がありましたら伺いますが、いかがでしょうか。

原田委員

基本的なことですが、個人学習の時間は子どもたちが自分で勉強したい教材を持ってきて、学生プレゼンツのところは学生さんが用意した問題を解くことや、教材を解くという認識で合っていますでしょうか。

杉原参事

原田委員の言われたとおりで、学生企画は学生さんがつくった問題だったりとかということで、個人学習は夏休みの課題を持ってきたり、解きたい問題を持ってきたり、あと紙のテキストも1冊作ってお配りしているので、それを取り組んだり、またはタブレットドリルに参加した児童・生徒はタブレットで算数の学習、数学の学習という形になっております。

原田委員

もし可能でしたら、この学生プレゼンツの枠などに学力テストの結果などを反映していただきたいと思います。自分の言葉で表現する、調べたものをまとめて自分の言葉で表現するという部分はやはり毎年つまずくところになっていると思うので、そういう問題を入れていただくと有り難いと思うのと、やはり毎年言語化のところをつまずいていることを考えると国語力が不足しているところも感じるので、算数・数学パワーアップ教室プラスアルファ国語のようなそういった

時間を1時間だけでも入れていただけるような、現状に合わせてどんどん進化させてもらえれば有り難いと思います。

杉原参事

学生プレゼンツ企画については、学生とミーティングをするときに、そういった学力・学習状況調査の問題も活用してもいいよということを促していますが、なかなかそこら辺に学生が食いつかなかったというところもありますが、4つある中の1つはいわゆる論理的な思考が必要なことがあって、それを小学生4人グループとかにして、そこで相談をして発表するような活動は中に含まれていたり、あとウオークラリーの問題の中に、学生が、きちんとそれについて説明をするという関門も設けたりもしています。

それから、これからもやはり同じことをずっと続けていてもマンネリ化してしまうので、リニューアルはしていかないといけないというところで、これが理系人材の育成というところに絡めて少し考えてみたいと思います。ありがとうございます。

領家教育長

ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

領家教育長

それでは、本日予定しておりました議事全てが終了いたしました。これをもちまして第946回益田市教育委員会定例会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

=終了時間 16時20分=